

第1章 総 説

1 鈴鹿市の概要

本市は、三重県の北中部に位置しており、海岸線は伊勢湾に面し、山間部は鈴鹿山脈を境に滋賀県に接し、周囲は四日市市、亀山市及び津市に接しています。また、気候は温暖で四季折々の自然に恵まれた風光明媚な場所にあり、鈴鹿国定公園や伊勢の海県立自然公園等があります。

本市が誕生したのは、昭和17年12月で、当時の人口は5万2千有余人でした。その後、自動車産業をはじめ数多くの企業を誘致し、現在では、約20万人の人口を擁する都市となっています。

交通においては、国道1号、国道23号、東名阪自動車道、新名神高速道路、近鉄名古屋線、JR関西本線、伊勢鉄道等を中心に、中部・近畿圏の要衝としての機能を果たしています。また、かつて、海上交通の要衝として開かれた港は、今では漁港として栄え、アナゴ、ノリ等、四季折々の魚介類が水揚げされています。

農業においては、県内屈指の農業生産地となっており、市を貫流する鈴鹿川右岸側の東南部地域では、肥沃な大地と豊かな水という条件を生かして稲作や野菜栽培が、左岸側南部地域ではサツキやツツジといった植木栽培が行われています。また、茶栽培も盛んに行われ、中でも「かぶせ茶」は、上質なお茶として人気があります。

製造業においては、戦後、旧軍跡地を利用して企業誘致に努めた結果、自動車関連産業をはじめ、化学、薬品等の工場が進出し、伊勢湾岸地域有数の内陸工業地帯となっています。また、先端技術産業やモータースポーツを中心としたイベント産業等の次世代産業も育ってきています。

また、鈴鹿は、古くから伊勢の国の国府や国分寺が置かれ、政治や文化の中心として栄えてきました。そのため市内には、102件の指定文化財をはじめ、数多くの歴史遺産が存在しています。また、名匠たちによって、技と美しい心が引き継がれてきている「伊勢形紙」と「鈴鹿墨」は、伝統工芸品として国の指定も受けています。

さらには、国際交流も盛んで、アメリカ合衆国オハイオ州のベルフォンテン市及びフランスのル・マン市と友好都市提携関係にあります。また、自動車関連企業の海外進出や様々な国際的イベントの開催等により、市民の国際社会に対する意識の高まりがみられ、特に近年は外国人の集住が進み、国籍や文化の異なる外国人と日本人とが、ともに快適に暮らすための多文化共生社会の実現に向けた取組を進めています。

これらを背景に、平成28年度から令和5年度までの8年間を計画期間とした「鈴鹿市総合計画2023」では、総合計画を中心としたトータルマネジメントシステムを導入し、住民主体で行う地域づくりの推進体制の構築をはじめ、人口20万人都市の維持を目標に、各種施策を展開し、『みんなに愛され 選ばれるまち』を目指して取り組んできました。

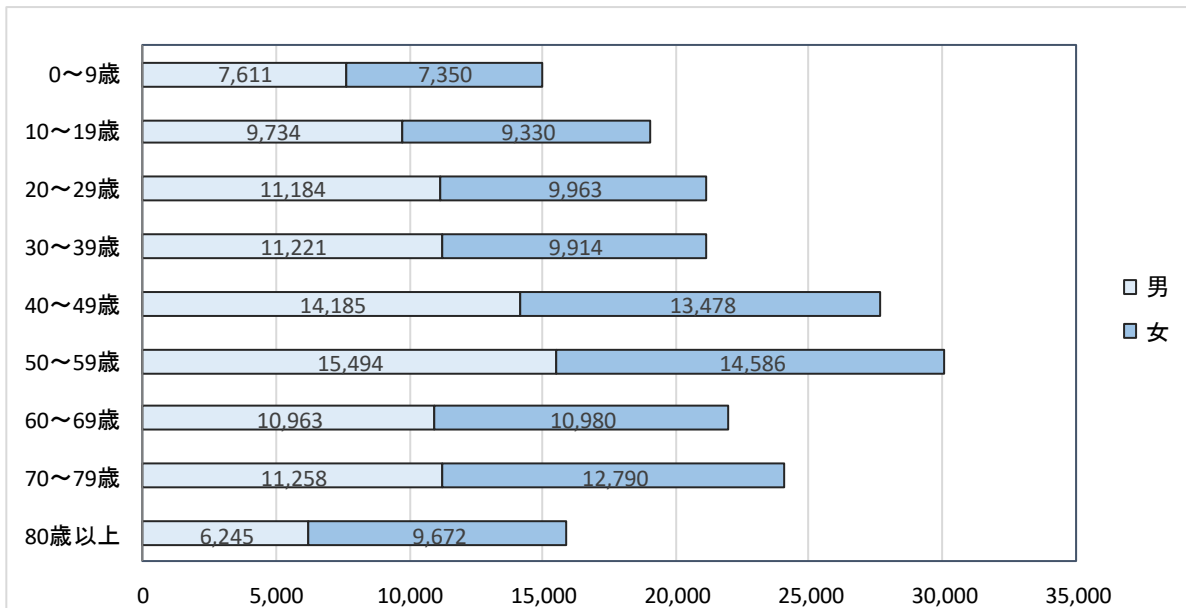
これまでの取組を継承し、社会情勢の変化に柔軟かつ的確に対応しながら、引き続き「みんなで協働して、活力のある、住みよい鈴鹿市」を目指していきます。

2 人口

(1) 世帯数及び人口の推移 (令和5年3月31日現在)

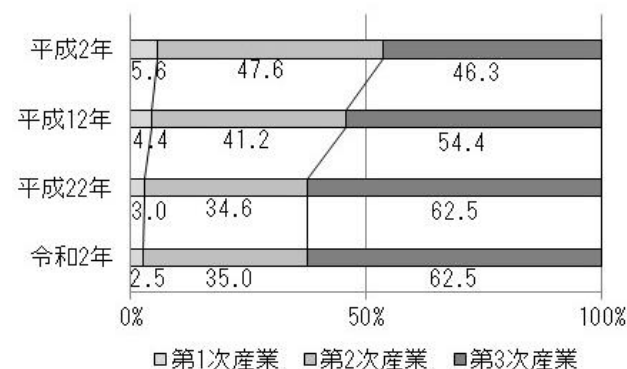
年度	世帯数	人口			備考
		男(人)	女(人)	計(人)	
昭和17年	9,827	27,213	25,157	52,370	調査日不詳
昭和30年	16,114	39,195	41,546	80,741	国勢調査
昭和40年	22,651	49,107	51,487	100,594	国勢調査
昭和50年	36,263	71,391	70,438	141,829	国勢調査
昭和60年	48,859	83,460	81,476	164,936	国勢調査
平成2年	53,744	88,168	85,937	174,105	国勢調査
平成7年	57,737	90,116	89,679	179,795	国勢調査
平成12年	62,960	92,618	93,533	186,151	国勢調査
平成17年	69,122	96,577	96,537	193,114	国勢調査
平成22年	75,868	99,925	99,368	199,293	国勢調査
平成27年	77,453	97,389	98,862	196,251	国勢調査
令和2年	82,096	97,355	98,387	195,742	国勢調査
令和5年	88,562	97,895	98,063	195,958	住民基本台帳 (令和5年3月31日現在)

(2) 年齢別人口 (令和5年3月31日現在)



3 産業

(1) 産業別就業者割合の推移 (国勢調査)



(2) 製造品出荷額等の推移 (経済センサス)

